

認知症を知りましょう

少子高齢化が進み、五霞町でも高齢化率が30%を超えました。

認知症の患者も、高齢化とともに増え、2025年には700万人を超え、65歳以上の5人に一人が認知症になると予想されます。

認知症は、誰でもなる可能性があり、認知症を取り巻く問題は、誰にでも起こり得る身近な病気になってきています。

「認知症」とは、「いったん正常に発達した知能(脳)に何らかの原因で記憶・判断力などの障害が起き、日常生活がうまく行えなくなるような病的状態」を言います。単なる物忘れとは違い、脳の病気です。原因は、アルツハイマー病や脳血管障害によるものが多く、高齢者に多く見られます。

家族が認知症と診断されたら、どんなふうに関わってあげたいのでしょうか。認知症の症状は、人によつて様々です。

介護する方は、介護サービスを利用するなどし、一人で抱え込まないようにしましょう。

いつまでも住み慣れた地域で安心して暮らすためには、認知症への理解を深め、地域で支えあえることが大切です。

まずは、認知症サポーターになり、認知症への理解を深めませんか。

認知症サポーターとは、認知症の方に対する接し方を学んだボランティアが、地域などで認知症の方及びその家族をサポートする制度です。今年も、五霞中学校1年生にも養成講座を受けていただきました。

受講した中学生からは、「認知症のことを知ってくれる人がもっと増えればいい。」といった感想もありました。

認知症サポーター養成講座は、開催の希望があれば、キャラバンメイトがうかがつて、開催します。お気軽にお声掛けください。

○お問い合わせ

・地域包括支援センター

☎(84)0765

・健康福祉課 高齢者支援G

☎(84)0006 (直通)



五霞中学校1年生
認知症サポーター養成講座の様子

(健康福祉課 保健師)

学校コーナー

考え・進め
未来へ!



五霞
中学校

五霞中学校では、9月には、3年生の修学旅行と2年生の職場体験学習が実施されました。特に3年生にとつては、修学旅行と最後の合唱祭・かすみ祭は、忘れられない一生の思い出になったことでしょう。

◇職場体験を終えて

2年 小坂 友里絵

私は、職場体験で接客の仕事を経験しました。まず最初に開店前に、店の掃除をしました。掃除にもいろいろな工夫があり、座布団やメニューの並べ方が工夫されていて、すごくお客さんのことを考えているなと感じました。開店して一人一人にお茶を持って行きました。最初は緊張して、うまく接客ができなかったけど、2日目は、1日目より落ち着いてできるようになりました。この2日間は、すごく貴重な経験をさせていただきました。この接客の職場体験を将来に生かしていきたいです。



◇修学旅行の思い出

3年 小沼 莉子

私は、修学旅行の実行委員となりました。みんなが楽しめる修学旅行になるように、他の実行委員と何ヶ月も前からたくさん話し合いを重ねてきました。当日は、ほとんど計画通りに日程も進み、実行委員会で話し合ったことが生かされた有意義な修学旅行となりました。和服着付け体験では、歩くのが少し大変だったけれど、貴重な体験ができてうれしかったです。みんなが楽しく3日間を過ごすことができ、一生の思い出になりました。



◇最後の合唱祭を終えて

3年 新井 裕貴

私達1組は、中学校生活最後の合唱祭で金賞をとることを目標にして一生懸命練習してきました。3年生はテストや受験勉強で毎日がとても忙しいです。その中でも朝や放課後の練習に参加してくれる友達がいたからこそ、一つにまとまることができました。その団結力で先生方や保護者に素晴らしい歌声を届けることができました。この合唱祭でクラスの絆をさらに深めることができ、よい思い出になりました。



護者に素晴らしい歌声を届けることができました。この合唱祭でクラスの絆をさらに深めることができ、よい思い出になりました。